

編集後記

●編集委員 (50 音順)

池田 徳彦 大須賀 穰 小澤 壯治 北川 雄光 北野 正剛
近藤 幸尋 坂井 義治 森 俊幸 山本 学

本誌の編集委員に任命され、初めての編集後記執筆の機会が巡ってきた。気が付いてみると多くの欧文・和文誌の編集委員に加えて頂き、査読や編集作業に要するエフォート率が年々上昇しているのが現状である。そんな中で本誌の「アナログ式」査読システム（失礼！）には当初戸惑いを感じた。私が Editor in Chief をさせていただいている某英文誌は、電子投稿、電子査読で判定し、自分以外の査読者のコメントもフィードバックされるという、現在ではごく当たり前のシステムだ。本誌では、紙媒体の投稿論文が「どかっと」送られてきて、署名入りの査読結果を提出する。二人一組で一つの論文を査読し、すべての論文を編集委員全員で審議する。同じ論文を査読した別の委員が全く異なる評価をすることもあり、しかもそのコメントを目にするのは編集委員会の当日である。異なる判断をした委員の意見にも配慮しながら、自らの論点を述べ一つの判定に収束させていく過程は、まさに人間模様を反映した微妙なさじ加減の議事進行となる。当初、この方式に戸惑っていた私も今ではその良さを痛感している。電子投稿、電子査読形式ではフィードバックを行っても査読基準の統一は極めて困難であり、一編の論文の査読者を選定し、判定を下す Associate Editor の力量に依存している。一方、本誌では査読者（編集委員）全員が一堂に会する機会が定期的に存在する。お互い面と向かって議論を重ねていると、本誌の理念、判定基準がおのずと浸透し、私を含め新メンバーが加わって以来、数回の編集委員会を重ねるうちに判定の一致率は明らかに向上している。編集委員会を北野理事長自ら陣頭指揮をとられていることが大きな要因であることは間違いないが、お互い顔を合わせて相手の人柄を少しずつ感じながらチームを作っていくこの「アナログ方式」は大変有効である。昨今グループ電子メールでの意見交換はごく当たり前である。私もいくつものメーリングリストに加えて頂き、飛び交うコメントに「ふむふむ」と頷きながら勉強させていただいている。ところが、そこにコメントを書き込もうとしたとき、多少の躊躇を感じるのが正直なところだ。顔の見えない相手と意見交換することへの不安であろうか？ ソーシャルネットワーク全盛の今日にあって、まさに時代遅れの情けない感覚である。本誌の編集委員会に参加して、自分がアナログ人間であることを痛感した次第である。子供たちに勧められて購入したスマートフォンも今一つ使いこなせていない。しかし、デジタル社会が進化すればデジタル社会の中でアナログ時代の良さが再現され、非デジタル人間がそれを意識することなく溶け込めることは間違いないだろう。それこそが超高齢化成熟社会における真のデジタル技術といえよう。一緒に食事をして、雑談をして、そして学術的な熱い論議を交わす…私にとって本誌編集委員会は楽しいひと時である。

(北川雄光)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 16 巻 第 4 号) 2011 年 8 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価：会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 2,940 円（本体 2,800 円＋税 5%）となります。

2011 年 年々ぎめ予約購読料：17,160 円（税込）（配送料：医学書院負担）

編集・発行：日本内視鏡外科学会（代表：北野正剛）

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F 一般社団法人学会支援機構内

☎ 03-5981-6011 (Fax 03-5981-6012/E-mail: jses@asas.or.jp) (担当：佐々木)

<http://www.asas.or.jp/jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 4F, 5-3-13 Otsuka Bunkyo-ku, Tokyo, 112-0012, Japan

©2011, Printed in Japan

発 売：株医学書院（代表：金原 優）（本誌担当：土田、田村、安部） <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802/E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷株 ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (南文京メディカル) ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●原著

再発鼠径ヘルニアに対する経腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術 (Transabdominal Preperitoneal Repair) の検討 村上慶洋・他 北見赤十字病院外科

●手術手技

胆嚢摘出既往例における一期的腹腔鏡下総胆管切石の工夫—内視鏡用胆管
プラスチックステントチューブの使用 村山良太・他 北九州総合病院外科
腹腔鏡補助下胃癌手術における手縫い Billroth 1 法再建 野崎功雄・他 国立病院機構四国がんセンター外科
腹腔鏡下噴門側胃切除における縦隔内食道残胃吻合—ナイフレス
自動縫合器を用いた食道細経胃管吻合 吉村文博・他 藤田保健衛生大学上部消化管外科

●症例報告

腹腔鏡下に胃全摘術と回盲部切除術を一期的に施行した
胃・上行結腸重複癌の 1 例 荻野佳彦・他 自治医科大学消化器一般外科
腹腔鏡下に切除した虫垂腺腫による虫垂重積症の 1 例 大川内治・他 公立陶生病院外科
右側肝円索・左側胆嚢結石症に対して単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した 1 例
..... 草野 徹・他 大分大学消化器外科
胆管と交通を有した単純性肝嚢胞に対して単孔式腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術にて
治癒し得た 1 例 松本浩次・他 板橋中央総合病院外科
腸重積を来した空腸粘膜癌に対して単孔式腹腔鏡補助下手術を施行した 1 例 若杉正樹・他 大阪警察病院外科
後腹膜原発神経鞘腫に対する腹腔鏡下切除の 1 例 當 和夫・他 国立病院機構嬉野医療センター外科
腹腔鏡下に診断・治療しえた結節形成により絞扼性イレウスを生じた
Meckel 憩室の 1 例 奥村 浩・他 慈恵会今村病院外科
腹腔鏡診断が有用であった魚骨による不顕性穿孔に続発した大網放射線菌症の 1 例 川崎誠一・他 千鳥橋病院外科
同じ 4 ポートで腹腔鏡下 S 状結腸切除および肝部分切除術を
同時施行した結腸癌同時性肝転移の 1 例 門田一晃・他 国立がん研究センター東病院上腹部外科
腹腔鏡補助下幽門側胃切除術後に発生した残胃壊死の 1 例 高橋 毅・他 淀川キリスト教病院外科
腹腔鏡下幽門側胃切除 Roux-Y 再建後に内ヘルニアを繰り返した 1 例 尾崎知博・他 癌研有明病院消化器外科